

新春特別講演会とコンサート

「ウィーン・フィルのニューイヤーコンサート」生中継秘話 ～天才指揮者クライバーの名演を世界初ステレオ&ハイビジョン中継～

新年最初のCDコンサートは元・NHK音楽プロデューサー、NHK交響楽団演奏企画部長としてご活躍された、竹森道夫氏をお招きし、「「ウィーン・フィルのニューイヤーコンサート」生中継秘話」と題して「新春特別講演会&CDコンサート」を開催します。

毎年元日に行われている、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団によるニューイヤーコンサートの模様は、世界46ヶ所まで放送され、元日の世界的イベントとして定着しています。このコンサートは1984年から衛星生放送するようになりましたが当時の衛星回線は容量が狭く、音声はモノラルでしか送れませんでした。1987年にデジタル技術の進歩で、映像用と音声用に衛星回線2回線を使ってステレオ伝送できるようになりましたが、映像用は大西洋廻り、音声用はインド洋廻りで距離が違ってズレが出てしまうため、1989年NHKは早く届いた音声に「カチンコ」で映像を合わせてステレオ生放送を実現しました。またNHKが開発した高精細度テレビジョン放送を1989年ドイツのバイエルン州立歌劇場で行われたワーグナーの楽劇「ニーベルングの指輪」でハイビジョン制作。翌年にはサルツブルク音楽祭でヴェルディの歌劇「仮面舞踏会」をハイビジョン生中継しました。1992年、この実績をもとに「ニューイヤーコンサート」がNHKとORF（オーストリア放送協会）の共同制作で初のハイビジョン放送になりました。1989年、1992年の「ニューイヤーコンサート」の指揮者は奇しくもカリスマ指揮者カルロス・クライバーでした。クレメンス・クラウス、ウィリー・ボスコフスキーの時代から近年では、カラヤン、マゼール、小澤征爾、アバド等、世界の名指揮者達が指揮台に立っていますが、中でも世界の音楽ファンを虜にしたカルロス・クライバーの指揮は格別でした。

竹森道夫氏は1989年、1992年のニューイヤーコンサートの放送プロデューサーとしてウィーンに飛びました。指揮者がクライバーという事もあり、現地には放送各社のみならず、レコード、ビデオ会社等が詰めかけていました。その中での放送機材の搬入、セッティング、ORFと日本サイドとの調整等、竹森氏は多忙を極めました。そして遂にクライバーが登場しリハーサルが始まったのでした……。

今回は「ニューイヤーコンサート」の歴史を辿りながら、放送秘話だけではなく、間近で接したクライバーの貴重なエピソードについても、竹森氏に語っていただきます。

日時：2018年1月20日（土）午後2時00分～午後4時30分（休憩10分）

場所：龍ヶ崎シヨッピングセンター「リブラ竜ヶ崎」2階旧映画館

講師：竹森道夫氏（元NHK音楽プロデューサー、NHK交響楽団演奏企画部長）

テーマ：「「ウィーン・フィルのニューイヤーコンサート」生中継秘話」
～天才指揮者クライバーの名演を世界初ステレオ&ハイビジョン中継～

《竹森道夫氏・略歴》

1947年広島生まれ。1971年NHK入局、「音楽の広場」、「名曲アルバム」、「芸術劇場」、「NHK特集」等のディレクター、番組デスク・プロデューサー。1989年バイエルン州立歌劇場の「ニーベルングの指輪」、「サルツブルク音楽祭」、「ウィーン・フィルのニューイヤーコンサート」、「マリンスキー歌劇場」等のハイビジョン国際共同制作プロデューサー。1994年からNHK交響楽団演奏企画部長。2001年NHK退職後、東京都交響楽団演奏制作部長を経てその後、サントリーホール・シニアプロデューサー、浜松市アクトシティ音楽院音楽監督などを務め、2011年5月からNPO法人「日本の道」スタッフとして、岩手県最大の被災地のひとつ大槌町で音楽を軸にした支援と交流を行い、2013年エル・システムジャパン大槌が発足。一般社団法人「槌音」の理事として子供達の音楽指導をサポートする傍ら、鹿児島島の「霧島国際音楽祭」事務局長を務めている。またチーフ・プロデューサー時代にキーロフオペラの取材に行った折りに、ヴァレリー・ゲルギエフ氏と出会い、NHKの放送がきっかけとなり、当時ほとんど無名だったゲルギエフという天才指揮者が西側諸国に紹介されることとなった。その後国際的な活躍を続ける多忙なゲルギエフ氏も来日すると竹森氏の自邸を尋ねると言う関係を築いている。

曲 目

《第1部》

ヨハン・シュトラウス2世：ワルツ「春の声」
クレメンス・クラウス指揮（1954年ライヴ）
ヨハン・シュトラウス2世：ピッチカート・ポルカ
ウィリー・ボスコフスキー指揮（1979年ライヴ）
ヨハン・シュトラウス2世：ワルツ「春の声」
ヨーゼフ・シュトラウス：ポルカ「憂いもなく」
キャスリーン・バトル（sop）
ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮（1987年ライヴ）
ヨハン・シュトラウス2世：ペルシャ行進曲
ウィリー・ボスコフスキー指揮（1959年）
カルロス・クライバー指揮（1992年ライヴ）

《第2部》

【1989年1月1日「ニューイヤーコンサート」より】
ヨハン・シュトラウス2世：喜歌劇「こうもり」序曲
ヨハン・シュトラウス2世：ワルツ「芸術家の生涯」
ヨーゼフ・シュトラウス：ポルカ「小さい風車」
ヨハン・シュトラウス2世：ワルツ「春の声」
【1992年1月1日「ニューイヤーコンサート」より】
ヨハン・シュトラウス2世：ポルカ・マズルカ「都会と田舎」
ヨハン・シュトラウス2世：ワルツ「美しく青きドナウ」
ヨハン・シュトラウス1世：ラデツキー行進曲
カルロス・クライバー指揮ウィーン・フィルハーモニー
（ウィーン楽友協会大ホールでのライヴ）